報告

第3回産業技術交流会参加報告[†]

石渕 久生*

1. はじめに

第3回産業技術交流会が2004年1月10日京都パークホテルで盛大に開催されました。産業技術交流会は、日本知能情報ファジィ学会の主催により新春の京都で毎年開催されています。今回も実行委員長の湯場崎氏を中心に企画が行われ、日本の科学技術と教育に関して熱い議論が繰り広げられました。交流会は、以下のような3部構成になっていました。

第1部 基調講演

テーマ：日本の科学技術の現状と将来像

講演者：南茂夫氏

大阪大学名誉教授 前大阪電気通信大学学長

第2部 パネルディスカッション (写真1)

テーマ：日本の科学・産業技術教育はどうすべきか
パネリスト (写真2と写真3)：

湯場崎直養氏 (司会)

マイコム株式会社 代表取締役社長

一岡芳樹氏

大阪大学名誉教授 奈良工業高等専門学校校長

長島善之氏

写真1 パネルディスカッションの様子

日本の現代の名工 長島精工株式会社社長
岡本武夫氏

元・西脇工業高等学校校長

須磨ノ浦女子高等学校校長代行補佐

第3部 懇親会 (写真4)

2. 基調講演

残念ながら南先生の基調講演は代読ということになりましたが、学生に関する以下のような指摘は大学関係者として興味深いものでした。

- ・ブランド大学の学生は組織依存型で帰属意識が強く、大企業即一流企業と錯覚しており、親の古い感覚から抜け切れていない。
- ・専門性の強い大学の学生は自己依存型で独立意識濃

写真2 筆者（左）と実行委員長の湯場崎氏（右）

写真3 パネリスト (左から岡本氏、一岡氏、長島氏)

* Hisao ISHIBUCHI

大阪府立大学 大学院工学研究科 電気・情報系専攻 経営工学分野

Department of Industrial Engineering, Osaka Prefecture University

写真4 懇親会の様子

厚、目的意識が比較的明確で、職種や業種で就職先を選択し、中堅企業やベンチャー、独立志向である。

- ・アメリカの大学の学生は、成績の良い順番に、独立、ベンチャー、中堅企業、大企業、公務員を志向する。
- ・産業界では高度な教育を受けた技術者ほど体を動かさないという批判がある。

また、就職活動を行う学生に知って欲しいことのひとつとして挙げられていた以下の指摘は、なるほどと思わせるものでした。

- ・ハードなモノづくりの分野では、同期入社の子の間の実力差は1対2程度であるが、ソフトなモノづくりの分野での実力差は1対10程度のこともある。コンピュータソフト業界では、好きであれば連続徹夜も平気な人種が多く、ソフト開発には体力が必要である。

3. パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、まず、4人のパネリストからの話題提供があり、その後で自由討論が行われました。

湯場崎氏からの話題提供では、「少子化と高齢化」、「近隣諸国からの差別視」、「国民の無能化」、「誤認識による欧米崇拜」、「教育の崩壊」、「中堅技術者の絶望感」、「大学の乱立」、「モノづくり教育の軽視」などをキーワードにして日本の将来に対する危機感を語られました。

一岡氏は、国内総生産（GDP）や産業別出荷額、デジタルカメラの出荷額などの統計資料から話を始められ、現在の教育の問題点と今後の教育に対する提言を行われました。特に、教育に対する投資の欠如、評価の欠如、無責任体質の蔓延などの問題点を強調されていました。例えば、教育に対する投資の欠如の例として、高度成長期には、優秀な人材の多くが産業界に流

れ、教育界には「でもしか先生」に代表されるように優秀な人材が供給されなかったことを挙げられていました。さらに、工業高等専門学校校長という立場から教育制度に対する問題点を指摘されていました。

長島氏は、45年間の技術者・技能者としての経験に基づき、技能の出発点は体で覚えることであること、高い技能の習得には知恵が必要であること、知恵の獲得には経験が必要であることを述べられていました。また、工業高校の生徒による技能オリンピックへの挑戦、および、工業高校の生徒にバイクを持たせることを提言されていました。バイクは工業高校の生徒に対するモノづくりの教材としては最適のものであるという長島氏の考えは、昔はバイク、ミシン、時計でモノづくりを学んだという体験談に裏打ちされて、説得力のあるものでした。

岡本氏は、企業から高い評価を得ていた昭和30年代前半の工業高校の姿から話を始められ、兵庫県での「工業教育フェア」の企画と開催、西脇工業高校での「総合技術科」の新設、様々なロボット競技大会やソーラーカー大会への参加に関して熱く語られました。どの話題からも岡本氏の教育に対する熱い情熱が伝わってきました。大学統合に伴う再編により消滅する学科に所属する筆者には、少子化の時代での学科増設が困難を極めたことは容易に想像できますが、困難を可能にする情熱が講演から十分に伝わってきました。

話題提供の後には参加者を含めた自由討論となりましたが、フロアから多くの質問や提言がなされ、全く時間が足りないという状況でした（写真5）。

4. 懇親会

懇親会は、福田会長による挨拶、自由懇談、出席者の近況報告、福引という順番で進んで行きました。また、株式会社神戸製鋼所およびオムロン株式会社に対して、日本知能情報ファジィ学会実施賞の授与も行わ

写真5 自由討論の様子

れました(写真6と写真7)。実施賞は、学会活動への多大な功績に対するものであり、今回の実施賞は、特に、第19回ファジィシステムシンポジウムでの製品紹介ポスターセッションにおける優れた発表に対するものということです。

出席者による近況報告は、パネルディスカッションでの自由討論の続きという雰囲気であり、参加者から科学技術や技術教育に対する問題提起や提言が行われ、質疑応答も行われていました。また、学生参加者の紹介なども行われていました(写真8)。

最後に福引が行われました。参加者は、氏名とメッセージを書いた抽選用紙を抽選箱に入れて福引を待つことになります。福引の賞品には、2万円相当の福袋など多数の賞品が準備されていたので当選確率は高かったと思いますが、残念ながら筆者を含めて筆者の研究室からの参加者は誰も当選しませんでした。

5. おわりに

刺激的で面白い話を聞かせて頂いたというのが産業技術交流会に参加した感想です。講演やパネルディスカッションだけではなく、懇親会においても多くの参加者から面白い話を聞かせて頂くことができました。福引が外れたのは残念でしたが、最後まで楽しむことができました。来年も新春の京都で産業技術交流会の開催が計画されています(1月8日(土)の予定)。非常に面白い企画ですので来年は一緒に参加しましょう。

[問い合わせ先]

〒599-8531 大阪府堺市学園町1-1

大阪府立大学 大学院工学研究科

電気・情報系専攻 経営工学分野

石渕 久生

TEL: 072-254-9350

FAX: 072-254-9915

E-mail: hisaoi@ie.osakafu-u.ac.jp

写真6 実施賞の授与 (神戸製鋼所)

写真7 実施賞の授与 (オムロン)

写真8 懇親会での参加者紹介